令和８年度　　栗東高等学校　学校評価

本年度の重点目標

・生徒の良いところを認め、生徒が自信を持てる指導の推進
・生徒個々に応じた学力の伸長を図り進路目標を達成させる
・良好な人間関係を築くため、コミュニケーション能力の向上を図る

領　域	重　点　評　価　項　目	中間評価(10月)	総合評価（３月）	
		自己評価	自己評価	学校関係者評価
1　学校経営	校長の経営理念のもと、共通の認識・理解を持ち、特色ある取組を実施している。	A		
	地域の人々や、中学生に本校の取組（特色）を積極的にアピールしている。	A		
2　学習指導	ICTやBYODを効果的に活用した授業により基礎・基本の定着を図っている。	A		
	「シラバス」に沿った授業の展開と、生徒が分かりやすい授業を実施している。	A		
3　生徒指導	学年（担任）とより密接に連携を深めながら、生徒指導上の問題解決に努めている。	A		
	保護者や関係機関と連携し、いじめの早期発見・早期対応に努めている。	A		
4　進路指導	生徒・保護者に適切な情報提供を行い、早い時期から意識を高める取組を行っている。	A		
	希望進路の実現に向けた適切な指導を行うとともに、社会人として必要な基礎的な力の向上に努めている。	A		
5　特別活動等	生徒会活動・部活動等、課外活動の活性化に努めている。	A		
	HR活動を中心に、各学年に応じた、生徒が自主的に取り組める学校行事の充実に努めている。	A		
6　学校図書館	「図書館だより」の発行や、図書館企画・特別展示等の取組により、学校図書館の活用を進めている。	A		
	教科指導を通して、読書意欲の喚起に努めている。	B		
7　保健・安全指導	生徒の安全管理と疾病予防に努めるとともに、事故、ケガ、病気の発生時に適切に対処している。	A		
	教育相談等を通じて、丁寧に個々の生徒の課題に対応している。	A		
8　人権教育	お互いを理解し、豊かな人間関係の結べる生き生きとした仲間づくりに努めている。	A		
	お互いの多様性を尊重しつつ、人権学習の充実に取り組んでいる。	A		
9　環境教育	ゴミの徹底した分別に全校で取組み、省資源・リサイクルの重要性について指導している。	A		
	環境問題を学校生活の中で教えている。	B		
10　事務・管理	校務のICT化を推進することにより情報管理意識の高揚と働き方改革に努めている。	A		
	文書管理を徹底するとともに、「報告」「連絡」「相談」に努めている。	A		
11　その他 学校の取組	PTAと連携を深め、各種活動を活性化している。	B		
	各種研修会や公開授業等、学校独自の取組により開かれた学校づくりに努めている。	A		

（注）・評価表の見方：　６月　学校の教育目標に基づいた重点評価項目の公表
１０月　中間評価（自己評価）の公表（８月までの教育活動に対する中間評価）ＡＢＣＤの４段階評価で示す。
３月　総合評価（自己評価・学校関係者評価）の公表（年間の教育活動に対する総合評価）ＡＢＣＤの４段階で示す。
・自己評価は教職員による評価。学校関係者評価は、保護者・学校評議員等より構成された評価委員会等が自己評価の結果について評価することを基本として行う評価。
・ＡＢＣＤの基準については、評価項目の内容が、十分に達成できた場合（達成度80%以上）はＡ、おおむね達成できた場合（達成度60%以上80%まで）はＢ、
あまり達成できていない場合（達成度40%以上60%まで）はＣ、達成できていない場合（達成度40%未満）はＤとする。

学校のＵＲＬ：https://www.ritto-h.shiga-ec.ed.jp/